

主題	日常生活を‘自分らしく’送る		
副題	好きなことと関わる為には		
自分らしく生活する			
研究期間	6ヶ月	事業所	府中西和会 特別養護老人ホーム 鳳仙寮
発表者：特養介護職 工藤 優実		アドバイザー：特養介護副主任 加藤 理和 特養介護主任 不動田敏幸（認知症介護指導者）	
共同研究者：特養介護職 坂本 登紀子・富田 真由美			
電 話	042-360-1353	メール	hosenryo@cameo.plala.or.jp
FAX	042-360-1325	URL	
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	183-0031 東京都府中市西府町2-24-6 2002 年4月開設。特養50床、ショートステイ19床・認知症緊急シ ョート 1 床、通所介護・介護予防通所介護35名、居宅介護支援事業所 及び地域包括支援センターを併設する高齢者総合施設です。認知症介護 指導者を配置し、認知症ケアに関する積極的な取り組みを行っています。		

《1. 研究前の状況と課題》

Nさん 87歳 アルツハイマー型認知症。
平成19年鳳仙寮認知症フロアへ入所さ
れる。入所後、大腿骨頸部骨折あり、歩行不
安定となる。現在は見守りが必要ながらも独
歩で歩行されている。難聴であるが、コミュ
ニケーションは比較的良好。穏やかに過ごさ
れているように見えるが、仕事を求め徘徊さ
れている。特に夜間になると徘徊や不安を訴
えることが多い。鳳仙寮認知症フロアでは
現在、認知症特有のBPSD（行動や心理状態）
が起こる原因は何なのか？を考え取り組み
をおこなっている。そこで私たちは、Nさん
の24時間シートを作成し「Nさんらしさとは？」「尊厳とは？」に焦点をあて観察する
ことにした。「利用者一人ひとりに合ったケ
アを提供していくために…」、Nさんへの支
援は適切なのか、現在のツールは適切なのか
を考え、検証することとした。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

24時間シートを活用することで、Nさんの
様子を把握し、フロア全職員が課題と目的
を共有し様々な気づきを発見する。Nさんへ
のケアは職員目線ではないだろうか、生活リ
ズムは本人が望んでいるものなのか、日中の
活動は本人の求めに応じているのかを考え
た。12年を迎える当施設では年々利用者の
認知度・身体機能共に重度化が進み、事故報
告（ヒヤリハット）も増加傾向にある。安全
を優先して利用者の行動を抑制する考え方
へ陥りやすい。ここを突破し、Nさんの些細
な言動から Nさんの秘めている想いや気持
ちを見つけ、職員間で情報を共用することで
新たな気づきが発見できると考える。その気
づきや日ごろの観察から Nさんの本来やり
たいこと・興味のあることを自ら選択・自己
決定する仕組みをつくり、「Nさんらしい生
活を送る…」ことを目的とする。

《3. 具体的な取り組みの内容》

① 気づきノート

毎日職員が利用者様と、会話の中や観察を行った際に気がついたことを記入する。

② その人らしさ表

利用者様の経歴や生活歴もとに、[尊厳]を大切に、毎月ミーティングで話し合い作成する。(センターケア方式の考え方を反映)

③ 24 時間シート

2週間利用者様の 24 時間の活動や言葉・気持ち、睡眠状況など日常生活を細かく観察する。

④ 府中市の行事、観光地を載せた手作りマップ、外出時の写真の掲示をする。利用者様目線となる本棚の設置をする。PEAP(認知症の利用者に適した環境づくり)を取り入れる。

⑤ あじさい見学にて花に興味を持たれていることを発見する。上記のツールに基づき自分の意思で、花屋に行き、植物を購入し、育てる。

《4. 取り組みの結果と考察》

① 気づきノートにより、Nさんの日頃の言動や嗜好や行動パターンが理解できた。職員の違った視点で観察ができた。

② その人らしさ表を作成することにより、利用者様の生活暦を改めて知り、現在の「好きなもの」「嫌いなもの」「場所」などを職員で共有できた。

③ 24 時間シートを作成することにより、生活リズムが解り、感情の変化や睡眠時間が把握できた。

④ きっかけになるものを掲示や設置することにより、Nさんがそれを見て、興味を持ち、外出意欲が出てきた。「行きたい場所」「欲しいもの」など自己選択できる仕組みをつくることで、Nさんの興味を引くことができた。

⑤ 上記の取り組みにて、興味のあるものを引き出し、外出・日中の活動につながられた。

《5. まとめ、結論》

Nさんへの現在の支援は、まだまだ適切とは言えない。日々変化するNさんの心身に対し、職員が柔軟に対応していくことが必要である。今回は、フロアー独自のツールにて「好きなもの」「したいこと」に気づき、買い物支援ができた。今後の課題は、①新しい情報を得る為にその人らしさ表の更新を行うこと。②フロアー内の掲示物の種類を増やし③Nさんをはじめ利用者様の興味がわいたか等の評価をすることである。それらにより、関心の持てるフロアー環境となり、自己決定を導くことができるのではないかな。日常生活を‘自分らしく’送ることができるのではないだろうか。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、御家族様に電話にて確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被る事がないことを証明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献資料》

☆「認知症の介護のために知っておきたい大切なこと」トム・キットウッド&キャスリーン・ブレディン著 高橋誠一 監訳 寺田真理子 訳

《8. 提案と発信》

ノーマライゼーションの理念にあるように、私達と同様特養でも利用者様がコンビニで買い物をしたり、地域のボランティアに参加してもよいのではないのでしょうか。私達介護職は今後もたくさんのきっかけを提供し、利用者様が自分らしい生活を共に歩んで行けるように支援し続けることが大切である。

【メモ欄】